地域畜産振興部門

岐阜県高山市
飛騨ミート農業協同組合連合会
（代表：大池　裕）

飛騨ミート農業協同組合連合会のみなさん

夢と希望をもたらす
飛騨食肉センターの活動

―meet（集い）・meeting（話合い）・meat（ミート）の取組み―

飛騨地域は中山間地域に位置し、農畜産業が地域の振興を図る上で重要な役割を担っており、豊かな自然と農村風景と観光資源を活かし、“飛騨ブランド農畜産物”を構築し、中でも飛騨牛は飛騨地域の農業産出額の22%を占め、生産拡大とともに全国ブランドとしての地位を確保している。

こうした中、飛騨ミート農業協同組合連合会（JA飛騨ミート）は「飛騨食肉センター」及び地方卸売市場を開設し、と畜（H19肉牛：6,351頭）、市場取引、食肉処理までを一貫して担い、その中で産地食肉センターとして「飛騨牛」（H19出荷数：5,592頭）を主軸に、食肉の生産から流通・販売、消費者までをつなぐ大きなフードチェーンの中核的存在となって、高い理念と使命感を持って活動をしている。

特に平成14年には、O－157等の発生を機に食肉の安全性への関心が高まったことから、近代的な施設に整備し、組織上げての「安全・安心な飛騨牛を食卓に届けたい」という取組みが、平成16年には品質保証の国際規格ISO9001、平成19年には食品安全の国際規格ISO22000を、公設市場を開設する全国の食肉センターで初めて認証・取得することにつながっている。このことは食肉処理業務に止まらず、食肉流通の新たな形態を編みだし、飛騨牛の付加価値をいっそう高め、地域農業・経済の活性化に大きく貢献している。特徴的な活動の要点としては次のように上げられる。

第1は「飛騨牛フードチェーン」を構築し、農場から食卓に至るまでに関わる全ての層に、食肉流通とその安全対策について共通認識を持たせていることである。販売店、生産者等を対象とした「食肉流通フォーラム」、一般市民を対象とした「食肉安全フォーラム」を毎年開催して、積極的な情報公開、生活に密着した情報交換等を行い、さらに地域住民とのコンセンサスを得るため「住民懇談会」を設け施設の公開を行って、地域産業へ理解を深め意見交換の場としている。また消費者団体、小・中学校、高校などの体験学習や地場産業の見学コースへ開放、食肉の正しい知識を啓蒙し、食肉の消費拡大に向けた努力がなされている。

第2は生産農家との連携を強化していることである。安全な食肉は生産段階から始まるため、生産農家に出向き、ポジティブリスト制度の遵守確認や衛生管理について調査・指導を行っている。一方、育種改良事業についても支援体制を作り、関係機関と連携して枝肉研究会・共進会の開催、生産者向けに出荷枝肉の展示、枝肉情報の提供等を積極的に行っている。このことは全国に先駆けて育種価評価を取入れ、改良を飛躍的早めることにつながっている。

第3には飛騨牛銘柄化推進の基幹施設として機能である。高度な衛生管理のノウハウを結集した高品質な枝肉を生産する一方、20年来続いている全頭枝肉格付けによるセリ市場による販売形態は、生産側、購買側双方に大きな信頼を得ていることである。高品質、高度衛生管理、銘柄の条件が整った「飛騨牛」の取引価格は堅調で、産地市場でありながら消費地市場である東京市場より常に高く販売されている。このことは生産者の所得向上に反映され、肉牛の生産基盤の維持・拡大に大きく寄与している。第8回全共は飛騨食肉センターが肉牛会場となったが、地元出品の「飛騨牛」が最優秀枝肉賞を受賞し、枝肉単価が1kg当たり10万円を超す全共史上最高の価格を記録している。

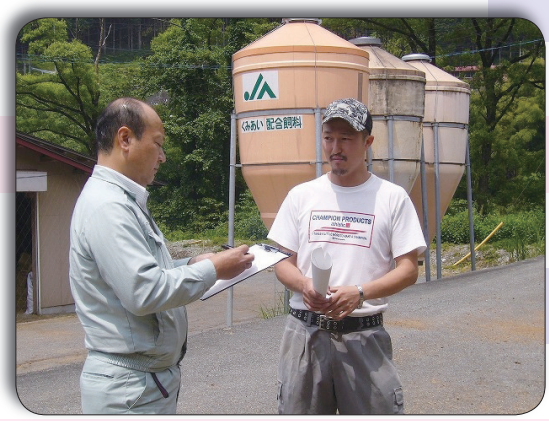
第4に観光産業と連携した地産地消による販売促進である。高山市の古い町並みを始め、世界遺産の白川郷、日本三大名泉の下呂温泉など多彩な観光スポットが多いことから、国内、国外から700万人の観光客が訪れている。ホテルや旅館で提供される「飛騨牛」は人気のメニューであり、「飛騨へ行って、飛騨牛を食べよう」は観光客のトレンドとなっており、このことは地元精肉店向けの枝肉販売が、3年間で40%も増加していることからも伺われる。

以上のように地域と一体化したＪＡ飛騨ミートの活動は、岐阜県における農業施策の根幹となっている肉用牛の生産振興並びに「飛騨牛」の銘柄化推進に大きく寄与している。その結果、一次産業から観光産業に至るまで関連する産業に元気を与え、ひいては地域経済の活性化には不可欠の存在となっている。

従来型の食肉センターを大きく進化させ、開放された新しい形の食品工場的存在となっていることは社会的な面からも意義深いことであり、また、ここで得られた食肉の衛生加工処理のノウハウが、諸事業を通じて全国の食肉センターへ提供され、食肉衛生管理のレベルアップに寄与していることも特筆できることである。

▲飛騨牛の改良に貢献した「安福」三代種雄牛

▲全共での飛騨牛の上位入賞牛（2002 年）



▲職員による農家への巡回指導

▲地元高校生の視察受け入れ

▲ BSE 対策のための近代的機械類（硬膜除去装置、せき髄吸引機）

▲食肉安全フォーラムでの飛騨牛の理解醸成活動